

令和2年度 主目標・重点事業・チーム目標設定状況報告書

所属名	岐阜県立はなの木苑	所属長名	小森 真哉 印
<u>主目標</u>			
利用者一人ひとりの個性を尊重し充実した毎日が送れるよう、個別支援計画に基づきサービス提供をするとともに、地域ニーズに応じた社会資源として開かれた施設とする。			
<u>重点事業</u>			
<p>① 利用者の思いを大切に、安心して豊かな生活が送れるよう、障がい特性に応じた専門性の高い支援を目指す。</p> <p>② 高齢化・重度化に応じたきめ細かい支援により、体調不良等の早期発見に努め身体機能を維持する。</p> <p>③ 施設入所サービスと短期入所・グループホーム・居宅介護等のサービスを相談支援事業を通じて、一体的に運用することにより、在宅利用者の利便性と家族の安心に繋げる。</p>			
<u>チーム目標（企画経営 重点目標①②）</u>			
<ul style="list-style-type: none"> ・障がい特性に応じた専門的な研修に積極的に参加し、個々のスキルの向上を図り、質の高いサービスの提供に努める。 ・虐待防止委員会・リスクマネジメント委員会を通し、利用者の権利擁護と職員の危機管理意識の向上を図り、安心、安全な生活環境を提供できるようにする。 ・関係機関との連携を密にし、事業継続が出来るように感染症対策の強化と利用者のサービス提供に支障が生じないよう情報収集を図り、迅速な対応を行う。また、職員の危機管理、感染症等に対する意識改革に努める。 ・医務との連携を図り、利用者の身体状況を的確に把握できるように、職員間の情報共有を強化する。また、利用者の健康維持のため、特に感染症予防を徹底し、生活環境の整備に努める。 ・利用者の健康と豊かな生活を支援するため、管理栄養士・厨房との連携を図る。 ・利用者の手厚いサービス提供ができるように、人員配置体制加算Ⅱの維持を目指す。 ・システム管理委員会を中心に、高齢化・重度化に応じた細かなサービスが提供できるような体制を整える。 ・経営会議にて収支状況の報告を行い、コスト意識を高める。 			
<u>チーム目標（生活支援1及び生活支援2 重点目標①②）</u>			
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の思い、できること等を丁寧にアセスメントし、個々の強みを生かし思いに沿ったきめ細かな支援ができるよう個別支援計画を作成する。 ・日課及び業務を見直し、多様な障がい特性に応じた生活環境の調整、支援内容を提供する。 ・高齢に伴う機能低下等に留意し、健康で安全に生活が送れるよう、介護技術研修等を実施し、職員のスキルアップを図る。 			

- ・強度行動障がいの方の支援を、より充実できるようケース検討会議や勉強会を実施し、利用者に解りやすい配慮と支援を検討し、個別に一貫した支援内容を提供する。
- ・利用者の希望や思い、出来ることを取り入れ、棟活動や創作活動等を通じ生活の楽しみ場を多く提供する。
- ・状況に応じ、作業に代わる日課やドライブ外出等、工夫して提供する。
- ・散歩や体操等、身体を動かす機会を多く取り入れ、機能低下を防ぐ。

チーム目標（地域支援 重点目標③）

- ・共同生活援助、短期入所、日中一時支援、居宅介護等の事業を通して、地域利用者のニーズに応じていく。
- ・共同生活援助については、地域の中でその人らしい生活が送れるよう、利用者のニーズに応じた個別支援計画を作成し、家族・関係機関と連携を図りながら安心、安全な生活が送れるよう支援する。
- ・短期入所については、入所利用者の状況を踏まえた上で受け入れ体制を整え、利用者のニーズに応える。
- ・居宅介護事業の行動援護については、個別支援計画及び手順書のもと、統一した支援を行うことで利用者の安心、安全に繋げていく。
- ・発達障がい支援センター事業では、圏内の発達障がい児者支援の中核的な役割を担う機関となるよう、総合的かつ専門性の高いワンストップ窓口としての役割を果たす。また、関係機関と連携を密にすることで、発達障がい児者が暮らしやすい地域の構築を目指す。
- ・相談支援事業を通して、地域生活におけるニーズを把握するとともに関係機関と連携を図りながら、より良いサービスに繋げる。
- ・在宅障がい者が地域の中で安心した生活が送れるよう、地域課題を把握しつつ、個々のケースに対しては細やかに対応し、障がい福祉サービス導入に向けた支援を行う。
- ・5市共同（6事業所）により設置する『東濃基幹相談支援センター』が地域の相談支援の中核となるよう連携の強化を図る。

※チーム目標の（ ）内には、「重点事業の①」などと、関連する事業名を記載すること。